

アカゲラ通信



シマエナガ観察・撮影の楽しさ

この冬も旭山はシマエナガ観察・撮影の人で賑わっています。

シマエナガはかわいい。そして、シマエナガの観察・撮影には楽しさがあります。

■シマエナガは待っていると来る

シマエナガは餌を探して群れで周回しており、よく出る場所で待っているとやって来ます。ただし、昨年は森の家の周りで3時間待っているとほぼ必ず見られていきましたが、今年は来ない日もあるなど現れる頻度が低く、昨年個体数が減り、行動範囲が広がっている可能性が考えられます。



■シマエナガはすぐには逃げない

例えはヒレンジャクは撮影していると飛んでどこかに逃げて行ってしまいますが、シマエナガは少しずつゆっくり移動しいきなり遠くには逃げません。

■シマエナガは追いかけて観察撮影できる

ゆえに行動を追うことができるし、追うこと自体も楽しいです。ただ、急に近づきすぎるのはご注意を。



■シマエナガは動きを読み、先で待っていることができる

観察しているとどちらの方向に動いているかが分かるため、その先で待っていれば来たところで撮影することができます。

■シマエナガは意外と近くに来る

待っていると多少警戒心が緩み、2mほどの至近距離で撮れることもあります。しゃがんだり木の陰に入るなど目立たないようにすればなおよし。ただし人を見ていないようでやはり意識はしていて、気が付くとすぐに飛んで逃げます。こちらから近寄っても見て見ぬふりしつつ逃げます。

■大勢で撮る楽しさ

野鳥はひとり黙って撮影し他人には話さないというイメージがあったかもしれないですが、シマエナガは違います。10羽前後の群れが辺りに散らばりながら現れるので、多くの人が自分の場所を見つけて撮ることができます。現れるのも別に秘密にするような場所ではありません。撮影中に仲良くなったり、インスタなどで後から同じ場所にいた人がいることが分かったりと、シマエナガ好きな人と人が共鳴してゆきます。

■シマエナガは「ふつうにいる鳥」

シマエナガはどこか特定の場所に行かない見られない、数が非常に少ない、珍しい鳥というではありません。開けた場所に面した森林ならどこにでもふつうにいる、出会う機会が多い鳥です。

■だけど…その1、動きが早い

シマエナガは同じ場所に3秒とどまっていることは少なく、ピントが合ったと思ったらいなくなっていることが多い。シマエナガに枝が被さるように写る「枝かぶり」や前後の枝にピントが合う「ピンボケ」など、撮影は意外と難しいです。ただ、慣れれば動きを読みたり、ピントを合わせる場所が分かってきます。

■だけど…その2、顔をそむける

ピントは合っていていい位置にいるのに後ろ向きだったり上向きだったりと、正面或いは横顔がきっちりと写らないことが意外と多いです。意識している？ レンズの反射やAF補助光を嫌がっている？

■だけど…その3、他の鳥も楽しい

シジュウカラ科の鳥やゴジュウカラ、コゲラもすぐに遠くには逃げず、近寄ることもできるので撮影は楽しいです。アカゲラは意外と警戒心が強くて近寄りにくいかも。ヒヨドリも身近な割に逃げるのが早く意外と撮りにくいです。



2月も後半になるとペアでの行動が多くなり、群れに出会って撮影する機会が減りますが、それでもイタヤカエデの樹液には集まって来ます。2月はシマエナガ撮影のラストスパートです。

コゲラ雄(後頭部に赤い羽がある)

ゴジュウカラ(亜種シロハラゴジュウカラ)

旭山野鳥メモ②3 コガラ

コガラ Willow Tit *Poecile montanus* スズメ目シジュウカラ科

北海道から九州まで生息。渡りはしないが、夏に高標高の山林で繁殖し冬に低標高地に降りてくる。旭山でも秋から春に少数見られる。

北海道のバーダーは酷似するハシブトガラとの識別に悩まされる。夏に低標高地で見られるのはほぼハシブトガラだが、悩むのは冬。

コガラの外見の特徴(識別点)として以下が挙げられている。

- ①翼の次列風切羽が白く目立つことが多い ②黒い頭の羽に光沢がない ③円尾 ④脚がさすくれ立って見えない ⑤嘴が細く直線的 ⑥嘴の会合部が白っぽく見えない…①はハシブトガラでも白っぽく

見えることはあるがコガラほどはっきりと白くはないのである程度使える。ただしコガラでもそれほど白く見えない角度もあって絶対ではない。②は光線状態によりあまりあてにならない。③は分かりにくい。④は程度の問題で判断が難しい。⑤は写真で比較するとある程度使えるが単独で見ると分かりにくい。⑥は観察では難しいが写真判定には使える。ハシブトガラはそれが先から付け根まで白く見えるが、コガラは白く見えない。

コガラは昨年5月に園内で木の穴に入って巣作りするような行動が見られ、すわこれは繁殖か、と様子を見ていたらその穴にある日ヤマガラが来て追い出されてしまい、園内での繁殖はまだ確認していない。

ヨガラは寒は夏の間も旭山にいるのかもしれない。今年はなんとか確かめたい。ヨガラにも要注意。



2月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧いただけます。森の家までおたずねください。

★ハギマシコ(右写真・雄)=今年は旭川でもときどき観察されています。

★ベニヒワ＝2目に入っても40羽以上滞在しており越冬します。

★マヒワ＝10羽程で少なくベニヒワの群れに紛れていることがあります。

★シメ＝森の家の周りに比較的近くで見られる個体がよく来ます

★白ソリ=数羽が混在していますが両種アカウツキも見られています

★シーヌ羽が帰社していまゝが並種アガツクも見られ
★西種ハシゴロウタグミニ2月上旬も見られていました

★金種ハリショウソウマー2月上旬も売られていよいよ。
★キクイタダキ＝園内の常緑松で比較的よく見られています。

★キクイタチヤー園内の常緑松で比較的よく見られています。
★クヌギヤー園内で観察情報が多いです。



旭山記念公園マップ

旭山記念公園では園内の名前がついていない場所に順次愛称をつけています。地図内●で名前を示したのがその場所です。どこで鳥を見たといった情報交換にも活用できます。まだ決まってない場所にいい名前が浮かんだ方はぜひ森の家までご一報ください。

